

インフォメーション・コーナー

会 告

○第76回(2027年度)農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10月31日	82
○農業農村工学サマーセミナー2026参加者募集!(第2報) 参加申込締切 8月9日	83
○農業農村工学会 若手交流会 in 大阪 参加者募集! 申込締切 8月10日	84
○新刊「農業用ダム保全管理工学」の発刊	84
○「農業用ダム保全管理工学」のカバーを修正しました	84
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊	85
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」, 設計「頭首工」, 設計「農道」の発刊	85
○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	86
○CPD 通信教育の参加者募集!! 問題と解答はホームページに掲載	86
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	87
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	88
○2027年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9月30日	88
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2026年7月から2029年6月までの編集体制と編集事務局	89
○令和8年度東北支部総会・第66回東北支部研究発表会ならびに第56回東北支部研修会・ 第46回地方講習会の開催(第1報) 11月19~20日開催	90
○関東支部2026年度技術研修シンポジウムの開催(第2報) 申込締切 9月14日	90
○第77回関東支部大会の開催(第2報) 参加・講演申込締切 10月9日	91
○第81回中国四国支部講演会および第50回地方講習会の開催案内(第2報) 講演原稿提出締切 9月8日	92
○令和8年度九州沖縄支部大会(第107回シンポジウム・講習会・講演会・現地見学会)の開催(第2報)	93
参加申込締切 9月4日・投稿締切 9月6日	93
○2026年度計算力学技術者(CAE技術者)認定試験の案内	95
○第69回粘土科学討論会の開催 9月15~18日開催	95
○日本学術会議公開シンポジウム「人口減少社会における地方都市の未来価値」の開催 9月18日開催	96
○第18回「梶木賞」論文の募集 応募締切 10月30日	96
○第29回(2027年)日本水大賞の募集 応募締切 10月31日	97
農業農村工学会論文集 内容紹介	98
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」誌 最新号掲載論文紹介	99
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧	101
学会記事	102

第94巻第9号予定

展望：生きた技術の継承：村田基次

小特集：工事・調査・実験・管理等の現場における基本作業の工夫と技術

報文：単孔式希釈試験を用いた透水係数評価に関する工夫と知見：倉澤智樹ほか

報文：多良間島におけるトレーサー試験を用いた淡水レンズ取水試験時に発生する孔内流の発生実態把握：
平野智章ほか

報文：環境トレーサー調査を支える現地・実験室での基本作業：土原健雄

報文：沿岸域地下水資源の携帯測定機器による調査の工夫と留意点：白旗克志

報文：初学者もできる土壌調査の質を高める泥まみれの現場の知恵：廣住豊一ほか

技術リポート

北海道支部：近年の降雨データを活用した排水路整備計画の検討：村中貴紀ほか

東北支部：防雪柵設置による農道の冬期視界の確保：小笠原康雄ほか

関東支部：中路的鋼ローゼ橋の耐震性能照査における解析手法と耐震対策：内田翔里ほか

京都支部：農地復旧におけるデジタル技術活用事例：本田ひなのほか

京都支部：低空頭道路橋梁下へのL型組立水路の布設：加藤 都ほか

中国四国支部：豪雨により発生した崩壊性地すべり調査・対策工検討とその経過：坂東靖介ほか

九州沖縄支部：中山間地域における揚水機場の遠隔操作による管理省力化：池田 樹

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともあります。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2026年8月 25～28日	大会運営委員会	2026年度（第75回） 農業農村工学会大会講演会 ㊦	—	大阪市	93巻12号、94巻1、 2、3、4、5、6号
2026年8月 27～29日	農業農村工学サマーセ ミナー 2026 実行委員会	農業農村工学サマーセミナー 2026	—	大阪市	94巻7、8号
2026年9月 1～3日	農村計画研究部会	第1回次世代と学ぶ農村計画 (現地研修)	都市農村交流による 持続的な農村振興	群馬県 みなかみ町	94巻5、7号
2026年9月 15日	関東支部	2026年度技術研修シンポジウム ㊦	農村における外来種 対策の最前線	Web	94巻7、8号
2026年10月 29～30日	中国四国支部	第81回支部講演会 第50回地方講習会 ㊦	—	徳島市	94巻7、8号
2026年10月 29～30日	九州沖縄支部	令和8年度(第107回)支部大会 ㊦	未定	大分市	94巻4、8号
2026年11月 10日	関東支部	第77回支部大会 ㊦	—	甲府市	94巻6、8号
2026年11月 19～20日	東北支部	令和8年度総会・第66回研究発 表会・第56回研修会・第46回 地方講習会 ㊦	—	山形市	94巻8号
2026年11月 19～20日	京都支部	第83回研究発表会 ㊦	—	京都市	94巻4、6号

第76回（2027年度）農業農村工学会賞候補の推薦

第76回（2027年度）の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、下記の募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。なお、推薦書様式および授賞規程は学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）をご参照ください。
推薦書提出先および提出方法：学会賞選考委員会担当（new-suido@jsidre.or.jp）宛に電子メールでお送りください。
提出ファイル：推薦書のエクセルファイルおよびエクセルファ

イルをPDF化したファイルの2ファイル（推薦者の押印は不要、パスワードを設定してください。）

推薦締切：2026年10月末日

その他：メールが届き次第、受領の返信をしますが、数日経過しても返信がない場合は、上記担当者宛にお問い合わせください。

第76回（2027年度）農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2021年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表したものと同じ課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2023年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同じ課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2023年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同じ課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2025年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2025年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2024年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2026年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2016年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2024年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2021年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2021年10月から2026年9月までにを行ったものとする。	2021年10月から2026年9月までにを行ったものとする。	2024年10月から2026年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2026年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2027年度(第76回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2026年10月末日							
推薦書の提出先	公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛 new-suido@jsidre.or.jp							

農業農村工学サマーセミナー 2026 参加者募集！(第2報)

農業農村工学サマーセミナーは、農業農村工学を学ぶ学生や若手社会人・研究者の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度も農業農村工学サマーセミナー2026の開催を企画しています。内容や参加費が決まり次第、サマーセミナーのホームページや会告等でお伝えします。他大学の学生や他機関の社会人・研究者と農業農村工学に関する議論をしてみたい方、交流したい方、まだ研究室に所属していないけど農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どなたでも大歓迎です。たくさんのご参加をお待ちしております。

1. 主 催

農業農村工学サマーセミナー2026 実行委員会

藤田直己 (大阪公立大学大学院農学研究科)
浅野珠里 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
浦畑 夢 (三重大学大学院生物資源学研究科)
近藤航樹 (東京農工大学大学院連合農学研究科)
中山美沙希 (宇都宮大学大学院地域創生科学研究科)
神田亮佑 (宇都宮大学大学院地域創生科学研究科)
奥野勇佑 (宇都宮大学大学院地域創生科学研究科)
中田丞治 (東京農工大学大学院先進学際科学府)
武内宏一郎 (東京農工大学大学院先進学際科学府)
木下花菜子 (大阪公立大学農学部)
鶴田純也 (若鈴コンサルティング(株))

2. 開催方式 現地のみ

(※本年度もオンライン開催を行いません)

3. 対 象 学部学生、大学院生、若手社会人、若手研究者

4. 日 時 2026年8月27日(木)学会終了後(夕方頃)～29日(土)正午頃終了予定

5. 開催場所 「ほとりで」暮らしと学びの実験フィールド
〒536-0025 大阪市城東区森之宮1-6-85
UR 森之宮ビル1階

6. 参加費 19,000円

※参加費は全日参加かつ宿泊(2泊)の手配を希望される方の価格です。また、現地見学にかかる入館料・交通費等が別途必要となります。

7. 企画内容

【メインテーマ】

NNで実現!!都市と農の共生 in 大阪

【サブテーマ】

大阪で都市と農村の今と未来を考える!

新たなマーケティング開拓!なにわ特産品の売り上げに貢献せよ!

見て!触れて!学ぶ!～大阪の自然～

8. 参加申込期間 7月19日(日)～8月9日(日)

※スケジュールの詳細等は決まり次第サマーセミナーホームページに記載予定です。

9. 問合せ

E-mail: n.n.summer.seminar@gmail.com

ホームページ: <https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar>



農業農村工学会 若手交流の会 in 大阪 参加者募集！

若手交流の会（若手会）は農業農村工学を学ぶ学生、若手研究者、若手社会人の交流を目的とした学生主催の懇親会です。普段なかなか会わない他大学の学生、社会人と話したり、食事をして交流しませんか？多くの皆様のご参加をお待ちしております。参加申込みは、以下の内容をご確認ください。

1. 主 催

農業農村工学会 若手交流の会

2. 日 時

2026年8月26日（水）19：00～

3. 対 象

学部学生、大学院生、若手社会人、若手研究員

※学会のネームプレートをご持参ください。

4. 開催地 宮崎県日向市 塚田農場 京橋店

（JR・京阪・大阪メトロ京橋駅より徒歩3分）

5. 参加費 4,000円

6. 参加申込み

参加申込みは以下の①～④の内容を明記の上、右記の二次元



コードから専用のフォームに必要事項を記入して送信してください。

①氏名（漢字・フリガナ）②所属（大学・学部・学科・学年）③連絡先（メール）④当日の連絡先（電話番号）

7. 申込み締切 2026年8月10日（月）

8. 問合せ先

Email：nn.wakatekai2026.osaka@gmail.com

担当：大阪公立大学農学部 一ノ瀬周悠



新刊 「農業用ダム保管理工学」の発刊

農業農村工学会では、学会内で長年活動した農業用ダム保管理研究会を母体に農業用ダム保管理工学編集委員会を組織して、「農業用ダム保管理工学」を出版しました。改正土地改良法において、保全が明記されています。そのため、現場技術者が知っておくべき農業用ダムの技術を基礎的な事項から解説することで、技術研修のテキストや大学での教科書にも活用できることを意図しています。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：農業用ダム保管理工学

編 集：農業用ダム保管理工学編集委員会

発 行：（公社）農業農村工学会

価 格：3,960円（税込）、学割：2,860円（税込）

送 料：1冊200円（最大600円）

規 格：A5判 306ページ

発行日：令和7年9月1日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業用ダム保管理工学」のカバーを修正しました

令和7年9月1日に発刊しました「農業用ダム保管理工学」について、カバーに不備が見られましたので修正しました。大会講演会会場にてご購入いただきました方には修正版のカ

バーを送付しますので、下記あてにご連絡をお願いします。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL : 03-3436-3418

E-mail : suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊

令和7年4月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」（農林水産省農村振興局編集）を令和7年12月に発刊しました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,530円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 366ページ

発行日：令和7年12月17日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

- ③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL : 03-3436-3418

E-mail : suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」の発刊

令和6年3月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」（農林水産省農村振興局編集）を令和6年10月に発刊しました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：1,760円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 173ページ

発行日：令和6年10月10日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：4,510円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 728ページ

発行日：令和6年10月7日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,970円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 850ページ

発行日：令和6年10月7日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

- ③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL : 03-3436-3418

E-mail : suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

社会的状況を踏まえ学会では2026年度の学生年会費を免除しています。また、大学では、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

2024年5月には、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充(⑦)を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究(学会に一任)

(※特に記載がなければ(1)として扱います。)

(2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進

・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進

② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進

・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ(https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/)をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置(一般損金算入限度額+特別損金算入限度額)が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 通信教育の参加者募集!! 問題と解答はホームページに掲載

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得する方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

技術者継続教育機構のホームページにおいて、その時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認いただけます。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構

のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌8号掲載の問題は9月末日が解答期限)

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**をお願いします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第94巻・第95巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第94巻第9号	工事・調査・実験・管理等の現場における基本作業の工夫と技術	終了
10号	農業農村整備における生態系配慮技術の最前線	終了
11号	農地整備を契機とした新たな農業経営	終了
12号	土地改良長期計画に基づく農業水利施設の戦略的保全管理とデジタル活用	終了
第95巻第1号	農業農村工学研究のフロンティア	終了
2号	渇水リスクの高まりに立ち向かう農業用水の管理技術（仮）	8月10日
3号	集落の将来を考える（仮）	9月10日
4号	農業農村工学技術の開発と普及の促進に向けて産学官は何をすべきか（仮）	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第95巻第2号テーマ「渇水リスクの高まりに立ち向かう農業用水の管理技術」（仮）

近年、冬季の積雪不足や空梅雨の頻発など、従来の水資源管理の前提が覆される事態が常態化しつつあります。令和7年の夏は日本各地で記録的な暑さに見舞われ、河川水位の低下やダム貯水量の極端な減少が生じ、農業用水の確保や適正な配水が困難となりました。その結果、多くの地域で番水などの対応を余儀なくされました。「必要な時に必要な量の水を確保できない」渇水リスクの増加が顕在化しており、このような状況が続けば、不作に伴う農家の収入減、ひいては食料安全保障を脅かす事態に発展しかねません。こうした中、用水施設管理者や農家は農作物被害を最小限に抑えるため懸命な努力を続けています。

この課題に対し、用水再編や渇水対応を図る事業の実施が求められますが、その実現には長い時間を要するため、即効性の

ある対策も並行して進める必要があります。現在、限られた水資源を最大限に活用するための創意工夫と技術革新が各地で始まっています。たとえば、ICTやIoTを活用した細やかな水管理や水需要予測の高度化、ドローン・衛星を活用した作物生育状況や土壌水分のモニタリング等に関する技術開発・研究が進んでいます。また、作付け時期の調整や水利組合、関係機関、地域住民との連携・協力体制の構築、地域全体での水資源の効率的な配分に関する合意形成の取組みも重要性を増しています。

本小特集では、渇水リスクの高まりに立ち向かうため、全国の用水施設の管理者・営農者の皆さんの参考となることを目的に、水管理技術の開発、水需要予測の高度化、関係者間の合意形成の工夫など、現場で実践されている技術や研究に関する報文を募集します。

学会誌第95巻第3号テーマ「集落の将来を考える」（仮）

農村地域では、人口の減少・高齢化とそれに起因する地域資源管理機能の低下、地域活動の担い手確保の困難化など、多くの課題を抱えています。このような状況に対して、集落単位の将来の農業のあり方を描いてきた「人・農地プラン」に代わり、法定計画である「地域計画」が令和7年3月を期限として市町

村を主体に策定されることになりました。また、類似の取組みとして、国土交通省では令和3年6月にとりまとめられた「国土の管理構想」に基づき、市町村・地域管理構想が進められています。いずれも、近い将来の集落について住民自らが維持すべき農地の明確化など土地利用の将来像を策定し、それを支え

る主体を考えるものです。これらは、集落の将来を考える上で有益な取り組みですが、その策定には多くの課題もあります。特に「地域計画」については、策定して終わりではなく、継続的なブラッシュアップが必要とされています。

このような取り組みに関して、その策定状況を概観するとともに、策定された将来像のあり方、計画策定で生じた課題、計画の実質化方策等に関する議論を深めることは大変重要なことです。本小特集では、「地域計画」や「国土の管理構想」などの

法定計画や政策的な取り組みはもちろん、市町村や地域における自主的な取り組み、計画策定（技術）に関する検討も含め、土地利用や地域資源管理のあり方を中心とした集落の将来を計画することに関する議論を広く展開できればと考えています。計画の策定状況や策定された計画の特徴に関する報告、計画策定過程の課題と適用できる技術、計画の実質化やブラッシュアップに関する知見等、多くの応募を期待しています。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会Web上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

2027年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2027年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例およ

び国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。また、学生の方が実習やインターンシップなどで訪れた現場の写真も歓迎します。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第95巻（2027年第1～12号）

3. 写真などの種類

応募写真はA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含まれます。なお、四つ切りは254×305

mm, 同ワイドは254×356 mm, A4は210×297 mm, B4は257×364 mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20 MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 2026年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りします。

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第95巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2027年度大会講演会会場でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および賞金について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の賞金（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2026年7月から2029年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」（略称：PAWE）を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2025年のインパクトファクター（IF）は2.1であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）

- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑輪換、田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界12カ国からEditor（22名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2026年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです（一部検討中）。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Yu-Pin LIN

College of Bio-Resources and Agriculture, National Taiwan University, Taiwan

・Associate Editors-in-Chief

検討中

・Editors 12カ国から22名

・Editorial Advisors 27名

・Chief Managing Editor

検討中

編集事務局（2029年6月まで韓国担当）

検討中

投稿先：オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：<https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年4回（オンラインジャーナル）

購読料：正会員・名誉会員 9,900 円（税込）

学生会員（院生含む）4,950 円（税込）

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

令和8年度東北支部総会・第66回東北支部研究発表会ならびに 第56回東北支部研修会・第46回地方講習会の開催（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 令和8年11月19日（木）、20日（金）

支部研修会・地方講習会 10：00～15：30

2. プログラム概要（案）

会場：大手門パルズ

(1) 11月19日（木）

3. 問合せ先

① 支部総会・研究発表会 9：30～17：00

山形県農林水産部農村整備課（櫻井，横尾）

会場：大手門パルズ

〒990-8570 山形県山形市松波2-8-1

〒990-0044 山形県山形市木の実町12-37

TEL：023-630-2502

TEL：023-624-8600

E-mail：ynoseibi@pref.yamagata.jp

② 情報交換会 18：00～20：00

4. その他

会場：山形グランドホテル

詳細が決まり次第、本誌および東北支部ホームページ (https://www.jsidre.or.jp/R8_tohokushibutaikai/) で随時お知らせします。

〒990-0043 山形県山形市本町1-7-42

TEL：023-641-2611

(2) 11月20日（金）

関東支部2026年度技術研修シンポジウムの開催（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 令和8年9月15日（火） 13：30～16：00

農研機構農村工学研究部門 倉光太一

2. 会 場 Web 開催

14：05～14：20

3. テーマ 農村における外来種対策の最前線

ナガエツルノゲイトウの監視・駆除の取組

4. 趣 旨

水資源機構水路事業部 田村嘉奈子

農業水利施設や農地においてさまざまな外来種の侵入や拡散、それによる被害が問題となっている。本シンポジウムでは関東地方を中心とした実態を踏まえ、ナガエツルノゲイトウ、カワヒバリガイ、アメリカザリガニ等を対象に、検知・監視や防除技術の最新知見を共有し、実践的な外来種対策への理解を深める。

14：20～14：35

ナガエツルノゲイトウの駆除データの活用と評価指標

いであ(株) 弓木麻記子

14：35～14：55

ドローン・航空写真・人工衛星によるナガエツルノゲイトウの監視技術

5. 内 容

農研機構農村工学研究部門 篠原健吾

13：30～13：35 開会挨拶

14：55～15：10

筑波大学生命環境系 石井 敦

農業水利施設における貝類の簡易調査技術

13：35～13：45 趣旨説明

農研機構農村工学研究部門 渡部恵司

農研機構農村工学研究部門 渡部恵司

15：10～15：30

農業水利施設における外来貝類の被害対策

13：45～14：05

農研機構農業環境研究部門 伊藤健二

ナガエツルノゲイトウの生育環境と霞ヶ浦での分布拡大

農研機構農業環境研究部門 吉村泰幸・伊藤健二

15：30～15：45

農村地域におけるアメリカザリガニの防除手法

農林水産省農村振興局農村政策部鳥獣対策・農村環境課
佐藤朋和

15:45~15:55 全体質疑

15:55~16:00 総評・閉会挨拶

6. 参加費 無料

7. 参加申込

Web フォームによるオンライン申込み(URL
または二次元コード)

(締切: 令和8年9月14日(月)12:00)

<https://forms.cloud.microsoft/r/FYEjHbasdw>



8. 主催 農業農村工学会関東支部

共催 (国研)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学
研究部門

(国研)農業・食品産業技術総合研究機構農業環境
研究部門

後援 (一社)農業土木事業協会

9. 事務局

〒305-8609 農研機構農村工学研究部門内

農業農村工学会関東支部

2026年度技術研修シンポジウム事務局

E-mail: sh-nire-event@naro.go.jp

第77回関東支部大会の開催(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部大会(講演会・講習会等)

(1) 日時 令和8年11月10日(火)10:30~17:00

会場 ベルクラシック甲府

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-1-17

(2) プログラム(予定)

① 10:00~ 受付(1階受付)

② 10:30~10:45 開会式(3階エリザベート)

③ 10:50~11:20 支部賞授賞式(3階エリザベート)

④ 11:30~12:30 講習会(3階エリザベート)

議題および講師 調整中

⑤ 13:30~16:30 講演会

第1会場(3階エリザベート)

第2会場(3階ユージュニー)

第3会場(2階ヴィクトリア)

第4会場(2階コンチェルト)

⑥ 16:45~17:00 閉会式(3階エリザベート)

(3) 会場への案内

JR中央線「甲府駅」北口から徒歩約3分

2. 情報交換会

(1) 日時 令和8年11月10日(火)18:00~20:00

(2) 会場 ベルクラシック甲府 3階ユージュニー

3. 参加申込み

(1) 申込方法

山梨県農政部耕地課ホームページに掲載される専用フォームからお申し込みください。

<https://www2.ybs-travel.jp/receipt/agric26/entry/sendmail/>

【注意】

参加申込みに当たり申込み者情報および参加者情報を登録いただく必要がありますので、あらかじめご了承ください。登録の際に提供いただく個人情報は、厳重な管



理のもと本支部大会のみに使用させていただきます。また、登録による追加費用等は一切ございません。

(2) 講演会、情報交換会

参加申込み締切日: 令和8年10月9日(金)

(3) 講演申込み

申込み締切日: 令和8年10月9日(金)

(4) 参加費

・講習会・講演会 3,000円(学生、講演者は無料)

・情報交換会 7,000円

(5) 昼食

昼食は用意しませんので、各自をお願いします。

4. 講演会発表者原稿提出方法

(1) 提出方法

山梨県農政部耕地課ホームページに掲載される専用フォームからご提出ください。

<https://www2.ybs-travel.jp/receipt/agric26/#absguide>

(2) 原稿締切 令和8年10月9日(金)

(3) 原稿枚数 2枚または4枚

(4) 講演時間 質疑応答を含め15分程度

(5) その他

幅広い分野からの応募を歓迎いたします。

講演概要(200字)は学会誌や学会ホームページなどで公表させていただきます。ご了承ください。

5. 問合せ先

山梨県農政部耕地課技術管理担当 村松、高橋(克)

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1

TEL: 055-223-1626 FAX: 055-223-1624

E-mail: kouchi@pref.yamanashi.lg.jp

6. その他

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自をお願いします。

第81回中国四国支部講演会および第50回地方講習会の開催案内(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



中国四国支部では、第81回支部講演会および第50回地方講習会を下記のとおり開催するので案内いたします。

1. 日程

(1) 支部講演会

日時 2026年10月29日(木) 10:00~17:00
会場 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館) 大会議室(4階), 小ホール(5階), 会議室6(5階)
〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2-14
TEL: 088-622-8121

プログラム

受付開始 9:30~
開会式、支部賞表彰式 10:00~10:25(大会議室)
特別講演 10:40~12:00(大会議室)
「中山間地域の暮らしと農をどうつなぎ直すか—
棚田・獣害対策・関係人口づくりの実践から—」
(仮)

大芦高原山の暮らし研究所 代表
NPO 法人英田上山棚田団 理事
梅谷真慈

<昼休憩> 12:00~13:00

一般講演 13:00~17:00(大会議室,
小ホール, 会議室6)

(2) 情報交換会

日時 2026年10月29日(木) 18:00~20:00
会場 ザ・グランドパレス徳島
〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西1-60-1
TEL: 088-626-1111

(3) 地方講習会

日時 2026年10月30日(金) 9:30~12:00
会場 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)
大会議室(4階)

プログラム

受付開始 9:00~
講習会 9:30~11:40(大会議室)
1. 「防災重点農業用ため池の防災・減災対策の
推進における課題と対応状況について」
農林水産省農村振興局整備部防災課
課長補佐 鈴木智也
2. 「情報化施工の推進について」
農林水産省農村振興局整備部設計課
課長補佐 山下 航
3. 「土地改良事業設計指針「ほ場整備」について」
農林水産省農村振興局整備部設計課
課長補佐 中西大介

閉会式 11:45~12:00

※ 地方講習会は、一部の講習がWebになる可能性があります。あらかじめご了承ください。

※ 詳細については、農業農村工学会ホームページ内の中国四国支部講演会・地方講習会案内ページにも掲載しております。講演会での発表を希望される方は、Webページに掲載される情報にもご留意ください。

中国四国支部講演会・地方講習会案内ページ
(https://www.jsidre.or.jp/r8_chugokushikokushibutakai/)

2. 講演申込み方法

(1) 投稿票・講演原稿

投稿者は、中国四国支部講演会・地方講習会案内ページに掲載の「講演原稿の書き方」に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票を下記(8)のリンク先から提出してください。「投稿票」は同案内ページからダウンロードしてください。なお、発表時間や発表方法などについて連絡をとる場合がありますので、講演代表者の方は、必ず連絡先メールアドレスをお書きください。

提出の際、ファイル名は下記のとおりとし、「****」の箇所を講演代表者の氏名に置き換えてください。

・投稿票: ****_投稿票.xlsx

・講演原稿: ****_講演原稿.pdf

例) 四国三郎_投稿票.xlsx, 四国三郎_講演原稿.pdf

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名は学会員であることが必要です。

(3) 講演方法

原則として、1人1課題です。発表形態は口頭発表です。各講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式になります。

(4) 講演時間

1課題につき15分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、原稿は、モノクロで収録されます。

(6) 原稿の提出締切

2026年9月8日(火) 必着

(7) 窓口・問合せ先

岡山大学工学部工学科 環境・社会基盤系 環境マネジメントコース 福元 豊
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中3-1-1

TEL : 086-251-8161

E-mail : yutakafukumoto@okayama-u.ac.jp

- (8) 投稿票・講演原稿の提出先（下記の二次元コードからもアクセスできます）

<https://www.dropbox.com/request/aqua3ijy590tea8uz6ap>



3. 参加申込み方法

(1) 参加申込書

参加申込みについては、中国四国支部講演会・地方講習会案内ページに掲載の「参加申込書」をダウンロードし、可能な限り所属機関ごとにまとめて、下記の(5)参加申込み窓口までメールでお送りください。その際、メールの件名は「【所属機関名】農業農村工学会支部講演会申込み」としてください。

(2) 申込み期限

2026年9月15日(火) 必着

(3) 参加費

- ・講演会 参加費【一般：2,000円, 学生：無料】
- ・情報交換会 参加費【8,000円】
- ・地方講習会 参加費【一般：2,000円, 学生：無料】

(4) 参加費の納入方法

原則として、参加申込みに併せて銀行口座に全額前納での振込みをお願いいたします。振込手数料については、振込人負担をお願いいたします。また、上記(1)の参加申込書ごとに参加費を振込みしていただくとともに、振込み元がわかるよう、連絡者の所属・氏名等は必ずご記

入してください。

なお、振込み後の参加費の返金については、原則として応じられませんのでご注意ください。

【振込口座】

○銀行名 徳島大正銀行 県庁支店 (062)

○口座番号 (普通) 8531350

○名義人 農業農村工学会中国四国支部徳島県実行委員会 委員長 谷本 修

(ノウギョウノウソンコウガクカイチュウゴクシコクシブトクシマケンジツコウイインカイ)

- (5) 支部講演会, 情報交換会, 地方講習会 問合せ先
・講演内容等総合的な運営に関すること

徳島県農林水産部農山漁村振興課 矢川, 坂東

TEL : 088-621-2440

E-mail :

nousangyosonshinkouka@pref.tokushima.lg.jp

・参加申込みに関する事

徳島県農林水産部農山漁村振興課 國安, 久米

TEL : 088-621-2452

E-mail :

nousangyosonshinkouka@pref.tokushima.lg.jp

※投稿票・講演原稿提出窓口は別となりますのでご注意ください。

- (6) 昼食・宿泊案内

昼食・宿泊の斡旋・手配等はいりませんので、各自での対応をお願いいたします。

令和8年度九州沖縄支部大会（第107回シンポジウム・講習会・講演会・現地見学会）の開催(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時

令和8年10月29日(木)

9:00~17:00 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講習会・講演会

令和8年10月30日(金)

8:30~13:00 現地見学会

2. 会 場

- (1) 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講習会・講演会

iichiko 総合文化センター

(<https://emo.or.jp/>)

〒870-0029 大分県大分市高砂町2番33号

TEL : 097-533-4000 FAX : 097-533-4009

- (2) 情報交換会は開催いたしません。

3. プログラム (予定)

- (1) 10月29日(木) 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講習会・講演会

- ① 8:30~ 受付 (4階 エントランスロビー, 小会議室1)

- ② 9:00~ 9:30 開会式 (4階 音の泉ホール)

- ③ 9:30~10:00 支部賞授賞式 (4階 音の泉ホール)

- ④ 10:00~10:50 シンポジウム (4階 音の泉ホール)

「テーマ未定」, 講師: 未定

- ⑤ 11:00~11:50 講習会 (4階 音の泉ホール)

「防災重点農業用ため池の防災・減災対策の推進における課題と対応状況について」

講師: 農林水産省農村振興局整備部防災課 課長補佐 鈴木智也

- ⑥ 12:30~15:00 講演会【ポスターセッション】

(4階 小会議室1)

- ⑦ 13:00~17:00 講演会【オールラウンドセッション】

第1会場 (4階 音の泉ホール)

第2会場 (4階 中会議室1)

第3会場 (4階 中会議室2)

第4会場 (B1階 映像小ホール)

- (2) 10月30日(金) 現地見学会

- ① 8:00～8:20 受付
 ② 8:30～13:00 現地見学会
 集合時間：8:00
 集合場所：大分駅要町バス乗り場
 予定コース：出発地（要町バス乗り場）→国東クリー
 ブガーデン→別府湾サービスエリア→有
 限会社お花屋さんぶんご清川→到着地
 （要町バス乗り場）
 ※昼食なし、途中トイレ休憩あり。現場状況等により
 見学地が変わることがあります。また、交通事情に
 より終了時間が前後することがあります。

4. 参加費

	講習会 (10/29)	講演会 (10/29)	お弁当 (10/29)	現地見学会 (10/30)
一般料金（会員）	1,500 円	3,500 円	1,100 円※	2,000 円
一般料金（非会員）	2,500 円	4,500 円	1,100 円※	3,000 円
学生料金	500 円	1,500 円	1,100 円※	1,000 円

内訳

参加費：講習会、講演会、現地見学会（事前振込）
 昼食：お弁当代（事前振込）

（※お弁当をお申込みされた方は当日、受付にて引
 換券をお渡しします）

5. 講演会（オーラル・ポスターセッション）の発表申込み・ 発表方法

令和8年度支部大会の運営および参加申込受付は、大会運営
 事務局（大分県）が担当し、講演会の発表申込受付とプログラ
 ム編集は、九州沖縄支部事務局（琉球大学）が担当します。

講演会の発表については、下記によりお申し込みください。

なお、オーラルセッションとポスターセッションの投稿方法
 は下記のとおり統一されています。また、学生会員（学部生・
 研究生・大学院修士）はオーラルセッションではなく、ポスター
 セッションにお申し込みください。

(1) 発表申込み方法

「講演要旨（PDF形式）」と「講演会投稿票（MS-Excel
 形式）」の各ファイルをE-mailに添付してご投稿くださ
 い。E-mailの件名には「2026NN 九州沖縄_発表者氏名」
 と記載してください。この投稿をもって発表申込みと代
 えさせていただきます。

なお、講演要旨と講演会投稿票は、10.の支部ホーム
 ページからダウンロードしてご利用ください。

(2) 講演要旨・講演会投稿票の書き方

10.の支部ホームページから、「講演会投稿票・講演要
 旨の書き方及び電子投稿要領」をダウンロードし、ご参
 照ください。

また、過去15年以内に価値ある業績等を通算3回以
 上口頭で発表した会員に授与する研鑽賞は自己申告制で
 すので、受賞対象者になると思われる方は講演会投稿票
 に必要事項を記入して申告してください。

- (3) 投稿先（九州沖縄支部事務局）
 E-mail：zhunai@cs.u-ryukyu.ac.jp
 （琉球大学農学部 仲村 将）

- (4) 投稿締切
令和8年9月6日（日）

- (5) オーラルセッションの発表方法
 1 課題当たりの発表時間は質問・交代時間を含めて
 12～15 分程度です。発表用機材としてパソコン（OS：
 Windows11、ソフト：MS-PowerPoint）とプロジェク
 ターを大会運営事務局で用意します。OHP・スライド用
 機材は用意することができませんのでご了承ください。

- (6) ポスターセッションの発表方法
 原則として学生会員（学部生・研究生・大学院修士）
 を対象に募集します。ポスター賞を若干名に授与します。
 事前のポスター送付は不要です。

なお、ポスターセッションは、ポスター賞授与式を含め、
 15 時終了となる予定です。12 時 30 分～13 時 30 分のコ
 アタイムにおいて発表者は必ず各自のポスター前に滞在
 して発表してください。

① 用紙および枚数

1 課題当たり A0（縦）版 1 枚以内

② ポスターの掲示

10 月 29 日（木）11 時までに、発表者の責任で掲
 示用パネルにポスターを掲示してください。

(7) 講演要旨集

令和8年度は講演要旨集の印刷冊子を配付しません。
 参加申込み後、予定では10月中旬ごろに、10.の支部ホ
 ームページからPDFファイルのダウンロードをご案内し
 ます。

6. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

本大会の参加申込受付については、東武トップツア
 ーズ株式会社大分支店を通じて行います。(2)の大会参加
 申込み URL からアクセスし、リンク先からお申し込み
 ください。なお、講演会での発表希望者も発表申込みと
 は別に参加申込みが必要です。

(2) 申込み先

URL：https://sec.tobutoptours.co.jp/
 web/evt/oitakogakkai/



【注意】

参加申込みに当たり申込み者情報および参加者情報を登
 録いただく必要がありますので、あらかじめご了承ください。
 登録の際に提供いただく個人情報、厳重な管理のもと
 本支部大会のみに使用させていただきます。また、登録
 による追加費用等は一切ございません。

(3) 参加申込締切

令和8年9月4日（金）

※定員になり次第、締め切りますので、早めにお申し込みください。

(4) 参加費の納入

本大会の講習会・講演会・現地見学会等の参加登録および参加費受領については、東武トップツアーズ株式会社大分支店を通じて行います。参加登録完了後、お支払いに関するご案内メールが届きます。そちらからお手続きをお願いいたします。なお、振込手数料はご自身でご負担ください。

領収書は、お申込みいただいた上記リンク先（大会参加申込み URL）よりダウンロードしてください。

参加費納入、請求書・領収書についての問い合わせ等は 9.大会参加申込み・参加費納入についての問合せ先までご連絡ください。

※振込後の参加費等の返還には応じられませんので、ご注意ください。

(5) 講習会について

令和 8 年度は講習会テキストの印刷冊子を配付しません。参加申込み後、予定では 10 月中旬ごろに、10.の支部ホームページから PDF ファイルのダウンロードをご案内します。

(6) 現地見学会について

保険適用の関係で、事前にお申し込みいただかない限

り現地見学会には参加できません。申込みがない方の当日参加にはご対応できませんので、ご了承ください。

(7) 宿泊について

大会運営事務局では宿泊の斡旋・手配は行っておりません。

7. その他

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催方法および内容が変更となる場合があります。

8. 大会運営事務局

農業農村工学会九州沖縄支部大会運営事務局
(大分県農林水産部工事技術管理室 担当：陶山（すやま））
〒 870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1
TEL：097-506-3533 FAX：097-506-1757
E-mail：a15040@pref.oita.lg.jp

9. 大会参加申込み・参加費納入についての問合せ先

東武トップツアーズ(株)大分支店 担当：中村（なかむら）
〒 870-0034 大分県大分市都町 1-1-19
あいおいニッセイ同和損保大分ビル 2 階
TEL：050-9001-9772 FAX：097-538-1487
E-mail：oita_nogyonoson@tobutoptours.co.jp

10. 支部ホームページ

農業農村工学会九州沖縄支部ホームページ：
https://www.jsidre.or.jp/r8_kyushuokinawashibutai/ai/

2026 年度計算力学技術者（CAE 技術者）認定試験の案内

1. 主 催 （一社）日本機械学会

協 賛 農業農村工学会ほか

2. 試験日程

上級アナリスト面接試験

※ 2026 年 10 月初旬に一次試験

[固体力学分野]

2026 年 11 月 14 日（土）または 23 日（月）

[熱流体力学分野]

2026 年 11 月 7 日（土）または 14 日（土）

[振動分野]

2026 年 11 月 22 日（日）または 23 日（月）

1・2 級認定試験

[各分野 1 級]

2026 年 11 月 27 日（金）

[熱流体力学分野・振動分野 2 級]

2026 年 12 月 3 日（木）

[個体力学分野 2 級]

2026 年 12 月 4 日（金）

3. Web 申込期間

上級：2026 年 8 月 25 日（火）～9 月 10 日（木）

1・2 級：2026 年 7 月 21 日（火）～8 月 6 日（木）

4. 書類受付期間

上級：Web 申込後～9 月 17 日（木）

1・2 級：Web 申込後～8 月 18 日（火）

5. その他

詳細は、日本機械学会 計算力学技術者資格認定事業委員会のホームページ（<https://www.jsme.or.jp/cee/>）をご覧ください。

第 69 回粘土科学討論会の開催

1. 主 催 （一社）日本粘土学会

後 援 農業農村工学会ほか

2. 開催日 2026 年 9 月 15 日（火）～18 日（金）

3. 会 場 岡山大学津島キャンパス環境理工棟

〒 700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1

4. 問合せ先

（一社）日本粘土学会事務局

〒 162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

E-mail: clay-post@as.bunken.co.jp

詳細は、第69回粘土科学討論会のホームページ (https://www.cssj2.org/event/annual_meeting/) をご覧ください。

5. その他

日本学術会議公開シンポジウム

「人口減少社会における地方都市の未来価値」の開催

1. 主 催 日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会
日本学術会議地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会
愛媛大学未来価値創造機構

後 援 農業農村工学会ほか

2. 日 時 2026年9月18日(金) 13:30~16:00
3. 会 場 愛媛大学南加記念ホール(オンライン併用)
4. プログラム(予定)

13:30 開会挨拶・趣旨説明
愛媛大学長/日本学術会議連携会員農学委員会地域総合農学分科会委員長 仁科弘重

13:45 報告1「縮小社会を前提とした持続可能な国土・地域を構想するために」

日本学術会議第一部会員地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会委員長/明治大学経営学部教授 中澤高志

14:15 報告2「多極分散型社会の実現に向けた農の役割」
日本学術会議連携会員農学委員会地域総合農学分科会幹事/愛媛大学未来価値創造機構副機構長 武山絵美

14:45 休憩

15:00 パネルディスカッション「人口減少社会における地方都市のあり方をめぐって—多様な立場から考える地域の可能性と実践—(仮)」

モデレーター

日本学術会議・地域研究委員会・縮小社会の地域構想分科会・連携会員/愛媛大学未来価値創造機構副機構長

パネリスト

日本学術会議第一部会員地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会委員長/明治大学経営学部教授 中澤高志

日本学術会議連携会員農学委員会地域総合農学分科会幹事/愛媛大学未来価値創造機構副機構長 武山絵美

今治市産業部産業政策局海事都市今治推進課海事都市今治推進係長 山本貴之

いよぎん地域経済研究センター地域戦略グループ特任部長 山之内 崇

愛媛大学未来価値創造機構准教授 大久保 武

15:50 閉会挨拶

愛媛大学未来価値創造機構・機構長 山下政克

司会: 愛媛大学未来価値創造機構・副機構長 野村信福

5. 参加対象者 どなたでも参加いただけます。

※対面参加の定員は200名(事前登録制・先着順)です。

6. 問合せ先

愛媛大学総務部学長室

E-mail: senryaku@stu.ehime-u.ac.jp

TEL: 089-927-9046

7. その他

詳しくは日本学術会議公開シンポジウムのホームページ (<https://www.scj.go.jp/ja/event/index.html>) をご覧ください。

第18回「梶木賞」論文の募集

全国農村振興技術連盟では、将来の農業農村整備を担う若手技術者の皆様から、農村振興に対する自らの経験を踏まえた提言・抱負をまとめた、第18回「梶木賞」論文を募集いたします。

1. 主 催 全国農村振興技術連盟

後 援 農業農村工学会

2. 応募テーマ

農業・農村の直面している課題とその対応策(テーマを踏まえ論文の内容にふさわしいタイトルを決めてください)

3. 応募資格

全国農村振興技術連盟会員ならびに農業土木系の学科に在籍している学生

4. 原 稿

3,600字程度(上限3,800字)

写真・図の挿入は自由、提出原稿は横書き

5. 応募締切 2026年10月30日(金)

6. 応募先・問合せ先

全国農村振興技術連盟 企画部

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館内

TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176

E-mail: kajiki@n-renmei.jp

7. その他

詳細は、全国農村振興技術連盟のホームページ (https://www.n-renmei.jp/activity/activity04_2.html) をご覧ください。

第 29 回（2027 年）日本水大賞の募集

1. 目 的

日本水大賞は、21 世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環系の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

2. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞が授与され、広く公表されます。

大賞【グランプリ】

大臣賞

【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】

【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】

ほか

3. 募集期間

2026 年 7 月 7 日（火）～10 月 31 日（土）（郵送の場合は当日消印有効）

4. 応募方法

応募様式に必要事項をご記入の上、事務局あてに電子メールでお送りください。

応募方法の詳細はホームページを参照してください。

5. 主催等

(1) 主催 日本水大賞委員会および国土交通省

(2) 後援 農業農村工学会ほか

(3) 協賛 「川の日」実行委員会ほか

6. 送付先・問合せ先

日本水大賞委員会事務局

(公社)日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5

麹町 E.C.K ビル 3 階

TEL：03-3238-9771

E-mail：taisyo@japanriver.or.jp

7. その他

詳細は、日本水大賞のホームページ（<https://www.japanriver.or.jp/taisyo/>）をご覧ください。

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」

農林水産省農村振興局 編

令和 7 年 4 月 制定 令和 7 年 12 月 17 日 発行

A4 判 本文 366 ページ 定価：2,530 円（税込）送料：1 冊 200 円（3 冊以上 600 円）

＜制定の趣旨より抜粋＞

現行基準が制定されてから 5 年以上が経過し、令和 6 年の食料・農業・農村基本法（平成 11 年法律第 106 号）の改正の過程で、食料・農業・農村政策の新たな展開方向の具体的な施策の内容として「気候変動に伴い一層頻発化・激甚化する災害への対応として、将来予測に基づく計画策定手法の検討を進め、令和 6 年度中に排水に係る基準等の見直しを検討する」こととされ、改正法には「気候の変動その他の要因による災害の防止又は軽減を図ることにより農業生産活動が継続的に行われるようにする」こと等が新たに位置付けられた。

このような動きを踏まえ、近年、気候変動に伴い一層頻発化・激甚化する災害への対応として、将来の降雨予測に基づく計画策定手法を確立したことから、その方法を排水に係る土地改良事業の計画に反映するため、今般、本基準の内容を改めて制定した。

※図書の購入方法は会告（インフォメーション・コーナー）をご覧ください。

※問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階 公益社団法人 農業農村工学会 図書係

TEL：03-3436-3418 E-mail：suido@jsidre.or.jp

※なお、お電話・FAX によるご注文は受け付けておりませんのでご了承ください。